

■巨大地震に備える

政府は、昨年8月に東海沖から四国沖の『南海トラフ』沿いで巨大地震が発生した場合、30都道府県で最大32万人が死亡するとの被害想定を発表しました。

鹿児島県内で被害が最も大きくなるのは、冬の深夜に発生する最大級の地震で、四国沖から九州沖を中心に大津波が発生した場合です。

志布志湾岸では、震度6弱。津波の高さは約7メートルと想定されており、甚大な被害が予想されます。

一方このシミュレーションでは、避難がスムーズにできれば死者や被害が大幅に減ることも示されています。

町では、東日本大震災発生後、津波浸水域や避難経路を記した津波防災マップ製作や標高を示す標高表示板を設置し、防災対策に取り組んでいます。これらを有効に活用し、防災及び防災行動をとることが重要です。

津波防災マップ

津波防災マップを活用しましょう！



住んでいる場所に水害の危険があるか確認し、自宅から一番近い避難所や避難ルートマップに書き込みましょう。マップは、良く見える場所に貼っておきましょう。

標高表示板

住んでいる場所や居合わせた場所の高さを確認！



地震や津波はいつどこで起こるかわかりません。常に居合わせた場所の高さや高台の方向を確認しましょう。標高表示板は、高さを確認するもので『ここにいれば安全』というものではありません。

地域力で被害を最小に！

大地震から自分や家族の命を守るためには、さまざまな災害発生に備え、普段から十分な対策を講じておかななくてはなりません。しかし、大規模な災害が発生した際、道路の寸断や建物の崩壊などにより、救助活動が制限されることが予想されます。このような時、重要な役割を果たすのが隣近所の人達が集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に取り組む自主防災組織です。

自主防災組織は、実際に地震が発生した際には、地域住民が的確に行動し被害を最小限に止めるため、初期消火活動、被災者や要援護者の救出・救助、避難所の運営といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担います。

本町においては、約80%の自治公民館が自主防災組織を設立しています。まだ設立していない自治公民館においては、早期設立をめざし、地域全体の安全を心がけましょう。

